ひっ跳べ！加治木鳥

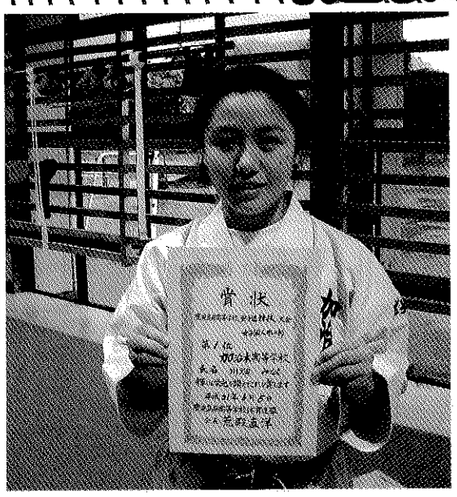
～「進取の気性」に富む加高生～

加高新聞

編集
加治木高校新聞委員会
印刷
㈲吉屋印刷所

今回の注目記事
空手道部女子個人形優勝
ようこそ新任の先生方
緊急！インフルエンザ特集
朝日先輩からの手紙

祝！［空手道部］女子個人形優勝！川畑みなよさん（2-8）



六月初めに行われた「鹿児島県高等学校空手道競技大会」において「女子個人形の部」で本校二年生の川畑みなよさんが優勝を果たした。決勝トーナメントでは強豪の徳之島高校勢を打ち破っての優勝であった。

川畑さんは、昨年の同大会において「女子個人形三位」で九州大会に出場しているが、それを見事に上回る結果に加治木高校中が沸いた。また兄である川畑俊達さん（鶴丸高校三年）も「男子個人形優勝」を果たし、兄妹そろって個人形優勝の快挙だ。翌日の南日本新聞での二人の笑顔も記憶に新しい。その川畑みなよさんに、県大会での形のルールや優勝までの軌跡、空手の醍醐味などを聞いた。

（形のルール）

・予選は指定形を演武

・決勝は得意形を演武

・審判が五～七名で判定

・勝敗の決し方は、「得点形式」と「旗形式」がある。

※形のルールはこれだけではなく、冊子が配られる程、実に細かく指示されている。

（試合結果）

決勝トーナメント一回戦シード

二回戦5―0川野（鹿南）

三回戦3―2宮上（徳之島）

決勝戦5―2益（徳之島）

川畑さんは「組手の方を得意とする私にとって、形はどちらかというと苦手」と語る。その「苦手な形」で優勝を果たしたのだから、いっそう驚かされる。また苦手な分だけ「試合で練習の成果が出て、自分の思うような形が演武できた時はとてもうれしい」と語る。

五才の時に初めて空手と出会い、その魅力には まって十二年間続けている。幼い頃から組手が好きで、小学校六年生の時に出場した「第四十四回空手道糸東会全国大会」では小学五・六年女子組手の部で優勝している。大きな大会での優勝の秘訣を聞くと「何よりも日々の基本練習が大事です」と教えてくれた。また、組手と形は違う種目のように思えるが「形がしっかりしていないと、組手でも結果を出すことができない」そうだ。これを聞くと県大会での形優勝も頷ける。

空手をはじめとした武道は、精神面の鍛錬が特に必要な競技という。川畑さんはとにかく「相手に気持ちで負けないように」心がけて試合に臨んでいるようだ。

実は個人形の後の、得意の個人組手では左手故障のために棄権している。その故障は県大会一ヶ月前の練習中に負ったもの。痛みをこらえての形優勝であったが、普段の練習の中で、また日常の中で精神力が鍛えられた成果であろう。

それでもさすがに個人組手では棄権せざるをえなかった。その悔しさを九州大会・全国大会での形の演武にぶつけてほしい。

ひっ跳べ！川畑みなよさん！

平成21年度　新生徒会発足

生徒会役員選挙の結果、役員が任命されました。

会長　浦本　崇志（2の2）
副会長　宮澤　昇吾（2の5）
※文化兼務
会計　柊原　美瑞（2の1）
新屋敷美紀（1の3）
文化　熊川　果穂（1の6）
体育　安樂　祐稀（2の8）
下小牧利紗（1の2）
※図書兼務
生活　原園　雄高（2の8）
交通　堀切　大地（2の7）
保健　新村　桂一（2の2）
整美　図師由希子（2の7）
道標　長谷場大輝（1の4）
情報　長濱　吉聡（2の7）

新生徒会長浦本崇志君に突撃インタビューを敢行！

Q　どうして生徒会長に立候補したのですか？

A　立会演説に出ると決まったときは、「役員になれればいいかな」と思う程度でしたが、日が近づくにつれてモチベーションが上がり、役員が決まった時は「会長になるようベストを尽くそう」と思いました。

Q　自分が生徒会長に決まった瞬間どんな気持ちでしたか？

A　まずは、自分が生徒会長になったので、中途半端ではなくしっかり自分の役割を果たそうと思いました。自分の役割を果たす、つまり公約の実現のために、生徒会役員そして生徒のみなさん全員と協力して、よりよい学校にしていこうと思いました。

Q　どんな学校にしていきたいですか？

A　行事を行うにあたって、不満ができるだけ出ないような学校にしていきたいです。そうすることで、行事や練習が苦しいだけのものにならず、情報役員でもある長濱君も言っていた「楽しい学校」が表現できると思ったからです。

Q　最後の質問になりましたが、どんな会長になりたいですか？

A　多くの人に話しかけてもらい、自分自身が「意見箱」のような存在となりたいです。その内容は僕に対しての文句であっても、生徒会への要望でもきちんと受け止めて、次へ生かして行きたいと思っています。このような生徒会長を目指すので、皆さんこれからよろしくお願いします。

青春プレイバック　第七回　前田　芳和先生

今回の青春プレイバックは、美術の授業を担当されている前田芳和先生です。

Q　高校生活での一番の思い出は何でしたか。

A　友達と自転車で九州を一周したり、鹿児島から長崎まで往復したりしたことです。当時は道路の交通量もゆったりしていましたね。

Q　九州一周はすごいですね。高校時代は将来何になりたいと考えていましたか。

A　画家など、とにかく画業に携わりたいと考えていました。

Q　なるほど。美術教師になろうと思ったのもそれからですか。

A　そうですね。美術教師になれば自分の特性を生かして絵を描いていけると思いましたから。

Q　先生は油絵が専門だと伺いましたが、油絵の良さとはどんなところでしょうか。

A　油絵の具はボリュームがあって、塗り重ねることで画面に厚みをつけられるところですね。描き手のタッチが出せるので、自分の思いを表現するには適した画材だと思います。

Q　確かに、油絵は画面に凹凸があって近くで見ると迫力がありますね。工芸室にも先生の絵が飾ってありますが、趣味ではどんな絵を描かれるのですか。

A　趣味で絵を描くということはあまりありません。いつも仕事として描いている感じですね。

Q　美術を教えていて良かったことや、難しかったことはありますか。

A　良かったことは、授業をするのが何より楽しいことです。様々な生徒の絵を見ることができますから。難しいと感じるのは、美術は感覚的な分野ですので、生徒一人一人の個性をどう評価するかということです。答えが一つではない世界ですから。生徒の良いところを上手く見つけて評価し、伸ばしていけるように努力しています。

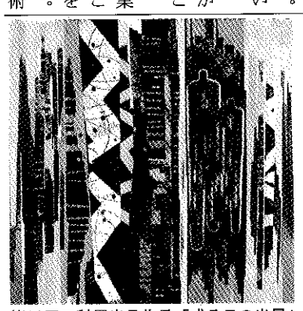
Q　美術の授業を通して生徒に一番伝えたいことは何ですか。

A　自分の考えや思いを作品に表現することで、表現力や人間力を高めて欲しいですね。それによって内面的にも成長していってくれれば良いと思います。

Q　これからの目標はありますか。

A　生徒の心に残るような授業をしたいです。

Q　最後に、加治木高校生へのメッセージをお願いします。



第93回二科展出品作品「或る日の光景」

A　加治木高校の生徒は、皆もの分かりの良い生徒ばかりです。しかし、日本社会は今まで以上に移り変わっていくので、ただ『大学に進学しよう』とだけ考えるのではなく、もっと先のビジョンを持って欲しいと思います。世の中の波に飲み込まれることがないように、高校生のうちに社会に出る備えをしておいて下さい。

部活動中ではありましたが、前田先生は快くインタビューに答えて下さいました。お話を聞いていると、先生の美術に対する熱意がとても伝わってくるのを感じました。美術というものを通して、表現力だけでなく人間力を高めるという言葉が印象的でした。

これからも、授業を通して美術の楽しさを教えて頂ければと思います。今回は、質問に答えて下さり、ありがとうございました。

樟陰

昨年一年間この加治木高校で生活をしてみて、季節感をよく体感できる学校だな、という印象を持った。

春には、校内のあちこちにある桜が一斉に咲き乱れる。秋から冬にかけては、学校を囲む山々が色を変え、葉や枝を散らし、目と鼻の先にある海は、深い藍に色を変える。そしてなんといっても夏には、本校のシンボルともいえる校庭の大楠が鮮やかな緑に萌え、夏の訪れを伝える。その太い幹ではセミが合唱し太陽の季節を感じさせる。

日本ほど、季節が変化し、それに伴い自然も千変万化する国は、世界でも珍しいといわれている。それなのに、現在では、自分が幼少の頃と比べても都市化が進み、自然は消えていっている。そして、気象状況や平均気温なども変容してきている。そんな中にいるために、せっかくある貴重な四季の変化を、私たちは少しずつ感じ取りにくくなってきている。これは本当にもったいないことだと思う。そう考えると、四季を感じられるという意味で、本校は非常にかけがえのない場所であるのだ。

この環境で勉強が出来ることは、とても有意義なことである。そして実際に勉強をしている私たちは贅沢者である。季節ごとの自然の美しさを見ることで適度な気分転換ができるし、季節の移り変わりを機に心機一転を図ることも出来るのである。

今年もまた、夏がやってくる。どうか、ちょっとしたときにでも校庭のほうに目を向けてみてほしい。そうすれば、大楠に若々しく茂っている新緑が、またその葉から反射した日の光が、今年の夏の到来を知らせてくれるに違いない。

新任の先生方 ようこそ加治木高校へ

今年四月から新しく本校に赴任された先生方（教科順）に自己紹介をしていただきました。

教頭　福迫　真見

城壁を覆う植物、海音寺先生の文学碑、霊気漂う大楠や樹木、そして見守るようにそびえ立つ蔵王嶽・・加治木高校に足を踏み入れた私は歴史の重みと「同士燃え加治木」の気迫を強く感じた。

旅行好きの五十三歳の私は、高岡公園からの桜島や岩屋寺跡、龍門司坂が今お気に入りだ。滝の流れを感じながら温泉に浸かる幸せも楽しんでいる。

明るく爽やかな生徒諸君、エネルギー溢れる先生方に助けられ励まされながら私の本校での生活はスタートした。さあ私も共に燃える同士となろう。

教頭　長　佳文

四月、正門脇の大銀杏に迎えられ校門に入ると、数人の男子生徒が自然に「おはようございます。」と気持ちの良い挨拶をしてくれました。始業式で担任発表の後、生徒の皆さんから先生方に対して大きな拍手がありました。毎朝六時過ぎには黙々と自習をする三年生がいます。儀式のたびに大きな声で元気良く校歌が歌われます。こんな素敵な加治木高校で働けることを誇りに思い、微力ながら一所懸命にがんばりますのでよろしくお願いします。

国語　二石　朝子

校舎から島津義弘公のお墓を眺めることができる鹿児島玉龍高校から来ました。ここ加治木高校では、晩年の義弘公の思い出を感じることができそうです。

時空を越えて古人と対話することが好きです。しかし、事実と真実は必ずしも一致しないと思うので、大学時代は、人間の想像力を加味して作られた世界を楽しめる文学を学びました。

加治木高校生には、伝統に支えられた誇り高いイメージを抱いて赴任してきました。担当の一年生が、これから誇り高く世界に羽ばたいていく姿を見守っていきたいと考えています。

国語　森園　隆志

加治木高校は姶良地区の伝統校として中学生の頃から知っていました。教員になり、まさか自分が赴任することになるとは思っていませんでした。

部活動や授業を通じて生徒とふれあう日々は、伝統や数々の実績というものの重みを肌で感じる毎日です。同時に、その重みがやりがいを高め、一日一日を充実した時間として感じさせてくれます。

できるだけ多くの生徒に対して、進路実現や自己実現、目標達成の一助になりたいと思っています。

地歴・公民科　福元　利之

今年度、大口南中学校から赴任した福元です。専門は公民（政治・経済）になります。

本校が、歴史と伝統ある学校とは、聞いていましたが、実際赴任して改めてそのすばらしさに感嘆しました。

生徒たちの挨拶もすばらしく、たまたま来校した妻も、息子を本校になら入学させたいと熱く語ったほどです（入学できるかどうかは別問題ですが…）。

微力ながら、できる限りのことをしていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

地歴・公民科　前田　直紹

今年、鹿児島東高校から赴任してきました。地理と政経を担当しています。姶良地区の学校は初めて勤務することになりましたが、通勤で利用する国道10号からの眺望が素晴らしく、一時間がとても短く感じられます。加治木高校の生徒は挨拶が良く、文武両道に取り組む意欲が溢れていると思います。学校も豊かな緑に囲まれ、落ち着きがあり豊かな伝統をしっかりと引き継いでいるところに素晴らしさを感じています。生徒諸君の将来に少しでも役に立てたらと思ってます。一年間、宜しくお願いします。

数学科　實藤　法道

私は、この春広島県からやって参りました。都道府県交流事業といって、二年間、他の県で教育活動を行ってくるという事業です。他県のシステムや指導方法等を学び、逆に広島県のことで伝えられることがあれば伝えるという使命を持っています。私は教育指導方法はもちろんですが、鹿児島県のよいところを少しでも多く吸収したいと考えています。また、加治木高校という素晴らしい学校に赴任できたことを嬉しく思い、少しでも生徒の皆さんを援助できればと思います。色々と教えてください。よろしくお願いします。

数学科　桐木平　豊

加治木高校の生徒の皆さん、川内高校から赴任してきました桐木平豊です。

百年を越える長い素晴らしい歴史と伝統をもつ加治木高校に赴任することができ、喜びを感じながら毎日過ごしています。

加治木高校に赴任して最も印象に残ったのが、生徒の皆さんが大きな声で校歌を歌うことです。自分の高校の校歌を大きな声でしっかりと歌えることができるとは何と素晴らしいことでしょうか。そのような皆さんと一緒に学校生活を送れることはとても嬉しく思います。今後ともよろしくお願いします。

数学科　川崎　辰也

この度四月に鹿屋高校から転勤してきました。初めて来校したとき、すれ違う生徒の皆さんの元気のいい挨拶が印象に残っています。ごく自然にそのような清々しい挨拶が交わせる姿に、校是に掲げられる「清新溌剌」さを感じました。専門教科は数学ですが、学校活動の全てを通して皆さんと一緒に学び合い、「質朴剛毅」「堅忍不抜」の精神を自分自身も養っていこうと思っています。そして皆さんの悔いの残らない卒業と自己実現の一助になればと思っていますのでよろしくお願いします。

理科　岩田　裕児

赴任し、校長室で海音寺潮五郎氏の「私の人間美学はここで形成された。」と書かれた書が目に入った。人間美学？その後、始業式での元気な校歌を聞き、挨拶を見、書の文字が頭によみがえる。これは地域の教育力を含め、伝統的に先輩たちから受け継がれているものだろうと感じた。この伝統校で私自身も受け取ったバトンをしっかり握り、頑張っていきたいと思っています。

趣味は、体を動かして、目一杯汗をかき、桜島を眺めながら水分補給をすることです。よろしくお願いします。

理科　児玉　活也

4月に本校に赴任をしてきました。前任校は県立山川高校でした。赴任して2ケ月、いろんな夢や可能性を秘めた生徒が多く、感動する毎日を過ごしています。

私の座右の銘は、「一期一会」です。世の中いろんなことがありますが、人との出会いはとても貴重で、意味深いものがあります。人は出会いによって成長することができるのだと思っています。

加治木高校での様々な出会いを楽しみに毎日を過ごしていきたいと考えています。これからもよろしくお願いします。

理科　江口　伸一

今春、新規採用として着任いたしました。私は水中生物が好きで、熱帯魚や海水魚の飼育が趣味です。私の好きな言葉は「ガンバろう！」という言葉です。マラソンで例えると、沿道の歓声から「ガンバろう！」と言われると少し違和感を感じませんか。この言葉は同じ境遇にある者同士、つまりランナー同士が掛け合うのが最適ではないかと思います。受験は団体戦と言われますが、皆さんは一日一歩前進しています。全員で声を掛け合い、それぞれのゴールで喜び合えるよう、一丸となって頑張っていきましょう。ガンバろう！

保健体育科　神薗　篤

私は、退職して二年目です。加治木高生に青春を貰います。大隅以外の露天風呂は少なくとも半分は入っていると思います。中でも県高校時代に出場した新潟県国体が今年また新潟県で開催されます。その団体に、鹿児島県選抜ラグビーチームを出場させることが、今年の目標です。

生徒がグラウンドや体育館など、部活動を通して頑張っている姿はとてもいいと思います。運動は、君たちの夢や希望を自己実現します。両立を目指してやるしかない。また、挨拶・服装など、基本的生活習慣が地方校として進学率を高めている原動力だと思います。

保健体育科　黒原　貴仁

加治木高校に来て二カ月が過ぎようとしています。

この二ヵ月間で様々なことがありました。中でも県大会での生徒たちの頑張りは感動すら覚えました。

私はラグビー部の顧問をやらせてもらっていますがこのラグビーというスポーツは実にすばらしいものがあります。タックルする男気、仲間を信頼することの大切さ。様々なことが学べると思います。まだ部活に入部していない生徒がいたら、是非ラグビー部に来てください。男の中の男になってみませんか？

英語科　上野　進

今年度、赴任してきた英語科の上野進です。鹿児島市内から毎朝、雄大な桜島を見ながら通勤しています。家族は、妻（年齢不詳）、高三の息子、中三の娘、愛犬ももの五人家族です。

趣味は温泉巡りで、特に露天風呂をこよなく愛しています。大隅以外の露天風呂は少なくとも半分は入っていると思います。中でも県高校時代に出場した新潟県国体が今年また新潟県で開催されます。その団体に、鹿児島県選抜ラグビーチームを出場させることが、今年の目標です。

生徒がグラウンドや体育館など、部活動を通して頑張っている姿はとてもいいと思います。運動は、君たちの夢や希望を自己実現します。両立を目指してやるしかない。また、挨拶・服装など、基本的生活習慣が地方校として進学率を高めている原動力だと思います。

英語科　有水　秀和

この度、本校英語科に赴任することになりました、有水秀和です。「銀行員→教員免許取得→教員」という経歴ですので、まだ加治木高校が二校目です。加治木高校の前は、松陽高校で働いていました。家族構成は、妻一人、子一人、犬一匹です。

加治木高校の印象は、色々な人から聞いていましたが、噂に違わず、活気のあるすばらしい学校だと思います。

英語科　川上　久美子

初めまして。英語科の川上です。まだ皆さん全員とは話す機会は少ないですが、これから様々な活動を通じて、一緒に頑張っていきたいと思います。

加治木高校に赴任できてとても嬉しく思っています。皆さんの挨拶はとても気持ちよくて、いつも元気をもらっています。また、勉学に励む一方で、部活動にも一生懸命で、部活動生の活気が学校中に響いている放課後の様子はとても素晴らしいと感じています。この伝統ある加治木高校で、皆さんと一緒に時間を過ごすことができることを大変嬉しく思っています。皆さんに負けないように、一生懸命頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

家庭科　川良いたり

三十年ぶりの母校。梅壇の木が深い木陰をつくるようになっており、経た年月を感じました。毎回のテストに追われるような高校生活は相変わらずのようですね。学問は、させられているという姿勢のうちはおもしろみを感じないのだ、という事に気づいたのは、大学にはいってからでした。みなさんには、今気づいて欲しいです。そして、懐かしい思い出で母校を振り返られるようであって欲しいと思います。わたしのいる家庭科準備室にも訪ねてきてください。先輩と後輩として語りあえたらいいなと思っています。

高校生活は一度きりです。何事にも全力投球していきましょう！

一日遠足

五月二日朝、加治木高校二学年は、した。そこでは、どっしりとした韓国岳が私たちを出迎えてくれた。

登山経験豊富な先生を先頭に出発した。はじめこそ楽な道だったが、次第に岩が気持ち悪くなり、登るのに苦労した。しかし、友人と励まし合いながらなんとか登り切った。

頂上に着くとそれぞれ弁当を食べたり、会話を楽しんだりした。校歌を歌う部活動生の姿もあった。皆が一緒になって手拍子し、とても盛り上がった。また、私はある先生から「頂上で食べるおにぎりはとてもおいしいぞ」と聞いていたのだが、その言葉通りだった。頂上は肌寒く感じたものの眺めは最高で、寒さも忘れて見入った。下山は登る時よりも楽で、また違う楽しみ方ができた。

この遠足を通して、新しいクラスの仲間との親睦が深まり、良い思い出ができた。そして友人と助け合い、励まし合うことの意味を知り、今まで以上に友人のことを理解することができた。これから、この思い出を高校生活の宝物にしていけたらいいなと感じた。

校歌を合唱する野球部の生徒

祝！九州大会出場

柔道・前田　武君　陸上・瀬戸口蓮君

五月末に行われた柔道の県大会において、「男子個人六十キロ級」で準優勝を果たし九州大会出場を決めた前田武（3年6組）君、陸上の県大会において、八〇〇m走五位入賞という結果で南九州大会出場のキップを手にした瀬戸口蓮（3年5組）君。今回は、この二人にインタビューをしました。

まずは前田君からです。

Q　いつから柔道を始めましたか。

A　小学校6年生のときです。

Q　どうして柔道を始めようと思ったのですか。

A　正直親に勧められてなんとなく始めましたが、こういう質問を受けたときは「弱いものを助けられる強い男になるために始めた」って言っています。（笑）

Q　柔道とは何が大事な競技だと思いますか。

A　精神力と坊主頭です。

Q　柔道をしていて辛かったこと、良かったことを教えてください。

A　辛いのは練習の時はいつもです。良かったと思うのはもちろん試合で勝ったときです。でももっと嬉しいのは武道の授業のとき森口先生に褒められることです（笑）。

Q　加治木高校の柔道部はどんな部ですか。

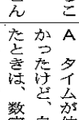
A　質素だけどクールアンドビューティーです。

Q　試合で勝つために部活動以外でしていることを教えてください。

A　出稽古や筋トレ、ランニングなどです。あとプロテインです。

Q　九州大会に向けての意気込みをどうぞ。

A　ひとまず全力で戦います！次は瀬戸口君です。



Q　いつから陸上を始めましたか。

A　中学一年からです。

Q　陸上はどんな競技ですか。

A　自分の限界に挑戦する競技です。

Q　陸上をしていて良かったこと辛かったことを教えて下さい。

A　タイムが伸びない時期が辛かったけど、自己ベストで走れたときは、数字で自分の成長が分かるので、とても達成感があります。

Q　加治木高校の陸上部はどんな部活ですか。

A　部員同士の仲がよく、明るく楽しい部活です。

Q　主な練習内容はなんですか。

A　ただ走るだけのようですが、その中でもさまざまな距離や設定タイムを決めて走ります。

Q　走る前に必ずすることや考えることはありますか。

A　自分は絶好調だと思い込み、勝つイメージや、レース展開などを考えています。

Q　これまで三年間陸上をしてきてどうでしたか。

A　辞めようと思ったことは何度もありましたが、続けてきてよかったと思います。

Q　南九州大会への意気込みを一言どうぞ。

A　自己ベストの更新と、インターハイを目指して、悔いのない走りをしたいです。

二人のインタビューは九州大会前に行いました。本番では上位入賞はならなかったものの、加治木高校代表として力を尽くしました。おつかれさまでした。

教育実習生インタビュー!!

意欲あふれる教育実習生4名にインタビューをしました。お二人ずつ紹介したいと思います。

片岡加奈恵先生（英語）
北迫夢芽先生（理科）

Q　加治木高校での思い出の行事は何ですか？

片&北　修学旅行とクラスマッチです。

Q　高校時代に楽しかったことは何ですか？

片&北　友達と毎日話したりすることが楽しかったです。

Q　家での勉強の時の気分転換は何でしたか？

片　家族、特に姉と話して笑ってすっきりすることでした。

北　大好きな音楽を聞いたり、少し仮眠したりしていました。

Q　これからの目標は何ですか？

片　何かの道で一花咲かせたいです。

北　「適当に頑張る」です。いいかげんではなく、適度に頑張りすぎないということです。過ぎたるは猶ほ及ばざるがごとしです。

Q　最後に、なぜ教師になりたいと思われたのですか？

片&北　今まで出会った先生方が素敵だったからです！

坂元宏樹先生（地歴公民）
六反雄一先生（保健体育）

Q　部活動は何部でしたか？

坂　今は無いですが、『器械体操部』でした。

六　サッカー部でした。

Q　家での勉強の気分転換は何でしたか？

坂　歴史や伝記などの本を読んでいました。

六　寝ることでした。

Q　どうして教師の道を目指しているのですか？

坂　一度社会に出て、教育が大事だということを肌で感じたからです。

六　子供が好きだからです。

Q　これからの目標は何ですか？

坂　養護学校の教員になることです。実習もそのために頑張っています！

六　実習を頑張り抜くこと！が今の一番の目標です！

Q　加高生にメッセージをお願いします。

坂　自分の信じた道を進め！

六　大学は楽しいところなので、今キツイ思い（勉強）をして、自分の行きたい大学に行って下さい！

実習中の忙しい中、インタビューに答えていただきありがとうございました。実習後も教師の道を目指して頑張ってください。

Kajiki Clubs that Rock!

女子テニス部インタビュー

Q　キャプテンをするにあたって気をつけていたことは何ですか？

A　自分の考えをみんなに押し付けないようにしていました。だから、定期的に3年でミーティングをしたり、副部長と話したりして、みんなの意見を聞くようにしていました。

Q　部活をする上で大切なことは何ですか？

A　感謝の心だと思います。自分のしたいことができることを当たり前だと思わず、常に感謝の心を持って過ごすと、部活に対する気持ちが変わると思います。

Q　顧問の先生とのエピソードをどうぞ！

A　まず…ご結婚おめでとうございます！エピソードは、一緒に練習をしたとき、先生の打ったボールがフェンスを越えてホームランになって、探すのが大変だったことですかね。（笑）

Q　最後に、後輩に一言！

A　努力は絶対裏切らない。自分を信じて、ポジティブに、攻める気持ちを忘れないでやっていれば、自然と結果はついてくるよ！

女子バレー部インタビュー

Q　なぜバレー部に入部したのですか。

A　入学してバレー部を見学した時に、先輩方がプレーしている姿を見て、私もここでバレーがしたいと思ったからです。

Q　部長をしていて楽しかったことは何ですか。

A　部員一人一人と接する機会が多く、みんなの色々な一面が見れたことです。

Q　バレーの練習・試合を通して得たものは何ですか。

A　気持ちの一つで試合の流れが変わることです。

Q　忘れられない一瞬を教えてください。

A　最後の大会です。涙が止まりませんでした。

Q　顧問の先生とのエピソードを教えてください。

A　上籠先生の結婚式にバレー部として参加し、先生のタキシード姿ときれいな奥さんを見て、感動しました。

Q　苦楽をともにした仲間に一言お願いします。

A　みんなとバレーが出来て本当に良かった！ありがとう。これからもよろしくね。

男子バスケットボール部インタビュー

Q　部長になった時の目標は何でしたか。

A　県大会ベスト8以上です。

Q　日頃気を付けていたことを教えてください。

A　練習と休みのメリハリをつけることです。

Q　部長をしていて大変だったこと何ですか。

A　部員一人一人が個性的で、悪く言えば自我が強くてまとめるのが大変でした。

Q　バスケの試合・練習を通して得たものは何ですか。

A　仲間の大切さです。

Q　顧問の先生とのエピソードを教えてください。

A　最後の大会の後、バスケ部全員で写真を撮る時に、森園先生の坊主頭の上にみんなの手を置いて写真を撮ったことです。

Q　苦楽をともにした仲間に一言お願いします。

A　受験が終わったら、また一緒にバスケをしよう！

Q　最後に後輩にアドバイスをお願いします。

A　今は練習がきついと思うけど、最後には笑えるように頑張れ！

百人一首部インタビュー

Q　なぜ百人一首部に入部したのですか？

A　小学五年生のとき初めて競技としての百人一首をやってみて、最初は全く取れませんでしたが上の句と下の句を覚えれば人より早く、多くの札を取れることが楽しかったからです。

Q　部活動をする上で大切なことは何ですか？

A　百人一首は「静」と「動」がはっきりしています。だから、けじめが大切だと思います。

Q　試合・練習を通して得たものは何ですか？

A　大会や交流会に参加し、他の学校にも良きライバルである、仲間を得ました。

Q　百人一首の醍醐味は何ですか？

A　たった三十一文字からなる昔の人の考えを学べて、それに思いを馳せることができ、札を取るのは快感です。

Q　最後に、後輩に一言！

A　百人一首はとても奥の深い競技です。いわゆる「畳の上のスポーツ」です。やったことのない人も少しでも興味があれば見に来てください。

緊急！インフルエンザ特集

皆さんは最近どのようにお過ごしでしょうか。今年は二ユースや新聞で「インフルエンザ」という言葉をよく目にします。今回は特に注目されている「新型インフルエンザ」の特集です。

新型インフルエンザは六月四日現在で、国内で四〇一人もの感染者を出しています。まずは基礎知識を学び、各自が意識を持つ事が予防への第一歩だと思います。

初めに、主な症状は①突然の高熱②全身のだるさ③頭痛や筋肉痛などです。インフルエンザの症状は、ウイルスによって変わる可能性もあります。

次に感染経路は二通りあります。一つは、感染した人の咳、くしゃみ、唾などとともに放出されたウイルスを健康な人が吸い込んでしまい感染する「飛沫感染」です。もう一つは、感染した人がくしゃみや咳を手で押さえた後や、鼻水を手でぬぐった後にドアノブなどのものに触れるとウイルスが付着し、そのウイルスを健康な人が触れた後に目、鼻、口に再び触れると感染してしまう「接触感染」です。ウイルスの潜伏期間は、一～七日間程度で、有症状期間は三～七日間です。高校生などの若い人に多くの感染が確認されています。どこでウイルスをもらうか分からないので、とても恐ろしい病気だと言えます。

なぜ、新型インフルエンザが「恐いもの」と言われているのかというと、今まで誰も感染したことがないということです。新型のインフルエンザは誰も免疫を持っていないため、通常のインフルエンザに比べると、感染が拡大しやすく、多くの人がインフルエンザになる可能性があることを意味しています。

もし、今多くの人がインフルエンザになったと仮定すると、次のような社会への影響があります。まず、

①患者や同居者の外出自粛です。地域の人と人との接触機会を減らすためです。次に被害が大きくなると、

②学校などの臨時休校や企業の業務の停止

③イベントあるいはコンサートの中止や延期

④流行地からの帰国および渡航の制限

が行われる可能性があります。

このようなことが行われないためにも、まず予防です。できるだけ人混みへの外出は避けて、もし外出するような場合には、マスクを着用し、帰宅後はしっかり手洗いとうがいをしなければいけません。マスクは、湿ってしまうと効果が低くなってしまうので、こまめに乾燥したマスクに取り替えることが肝心です。咳をする場合には、周囲の人から1m以上離れ、ティッシュなどで口を覆い、顔をそらしてください。使ったティッシュはすぐにゴミ箱へ捨て、くしゃみや咳を手で押さえた場合は、接触感染の可能性があるので、すぐに洗う事が大事です。

これらのことから考えると、感染を減らすためには、やはり各自の意識が大切だと思います。各自でしっかりと予防に努め、インフルエンザに感染しないようにしましょう。

スポーツ豆知識

四月二十七日の南日本新聞に、加治木高校OBの方々の記事が掲載されていた。マスターズ甲子園果大会で見事優勝し、あこがれの甲子園球場で徳島の優勝チームと対戦するという内容であった。

マスターズ甲子園とは、30歳以上の元球児だった人たちが同窓会チームを組んで、甲子園球場でプレーしようと始まったものだそうだ。このような大人になっても、甲子園でプレーしたいという気持ち。この熱い気持ちの原点である「甲子園球場」と「夏の高校野球」。今回はその2つについての豆知識を紹介しようと思う。

夏の風物詩とも言えるこの大会の、正式名称をご存知だろうか。正式名称は、「全国高等学校野球選手権大会」である。だが普段、その名で呼ぶ人はあまりいないだろう。「夏の甲子園」、「夏の高校野球」、もしくは単に「甲子園」と呼ぶ人が多いだろう。しかし、代名詞は「甲子園」といえば「土」が有名である。高校野球では敗退したチームの選手らがこの土を持って帰る習慣がある。しかし昔、その土は沖縄県の高校球児は持ち帰ることができなかったという。なぜなら検疫の関係上、海上から投棄を求められたからだとか…。今では優勝したチームも記念として持って帰るそうだ。

また、この土は鹿児島、岡山、鳥取、大分などの日本国内の黒土を使用している。それにもしっかり見えるようにするための配慮である。2つの砂のブレンドは季節の雨量や、太陽光量などを考慮している。したがって春は白砂を多く、夏は黒土を多く入れているそうだ。この配慮のおかげで私たちは夏の高校野球を楽しむことができるのだ。今度、テレビ等で映ったときには注目してほしい。

夏の甲子園には独特の名言がある。せっかくなので少し紹介しよう。

「甲子園には魔物が棲む」という言葉をきいたことがある。どうだろうか。これはたくさんの感動的ドラマを生み、思いもよらない結末を迎えることを例えていっている。確かに、どんでん返しの試合結末は魔物のせいのように感じるだろう。

また、3年生部員にとってはこの大会で敗退すると、高校野球生活は終わりだ。そのような意味をこめ、「夏が終わる」と表現するそうだ。実に学生生活を野球に捧げた彼らの思いがわかる一言である。

その他ちょっと変わった豆知識として、一九一八年の大会では、出場校は出揃ったものの、米騒動により中止だったこと。また第二次世界大戦中の休止の影響で、西暦一九××年に生まれた人の大会の回数が、第××回となるきまりがある。したがって今年は第九一回となる。またあの人々を熱狂させるゲームがやってくる。その熱いゲームがいつになるかは誰にも分からない。だからこその感動があり、日本全国が甲子園に注目する。ぜひ、今年はほんのちょっとの豆知識を頭にいれてテレビの前で応援するのはどうだろうか。

拝啓 ～朝日先輩からの手紙～

前回の加高新聞「青春プレイバック」において、今年の箱根駅伝で大活躍された朝日嗣也先輩にインタビューをしましたが、その朝日先輩からお手紙が届きました。

今年の一月三日、私は箱根駅伝を走らせていただきました。この「走らせていただいた」という言い回しでなくてはなりません。走っているときは孤独に変わりはないのですが、走行中はもちろん、出走に至るまでの約十年間に、私は数え切れないほどの「キバレ」の声援を受けました。直接会う方にしても、テレビや新聞を通して遠くから応援してくださった方にしても、大勢の皆さんに支えられて私は夢の舞台に立つことができました。それは決して忘れてはならない感謝の気持ちであり、心からわいてくる素直な感情です。

これからも、もうしばらく社会人でも陸上競技を続けさせていただきますが、選手生活を終えた後は、社会人としての役目を果たす心構えです。これまでが学生としてひたすら前向きに生活してきましたが、正直な所、社会に出ることは不安で一杯です、なかなか自身を持てない性格なのですが、周囲の協力や応援があれば、箱根駅伝を走れたように、これからもきっとうまくやれると思います。今後、オリンピックにでも出ない限り、箱根路のように目立つこともありませんが、私なりに精一杯やります。どうか見守っていてくださるとうれしいです。

振り返ってみれば、小学生のころからずっと箱根駅伝を夢見て陸上競技を続けてきました。それ以外は、周囲の学童・学生と変わらない男子だったと思います。

私のこの痩身体型は長距離選手向きであるとも言えるのですが、長距離走は見た目より力強さや筋力を必要とする競技です。なかなか筋肉がつきにくかった私は、この体質に何度も泣かされることになりました。

しかし、人の体とは鍛えると丈夫になっていくもので、大学三年の頃には貧血に陥ることはほとんど無くなりました。私は長距離選手として有利な体型を持つ反面、内臓が弱く、いわば燃費が悪い体質も持ち合わせていました。誰にでも一長一短あるものですが、苦手分野を克服したときの飛躍はとても大きいものだと身をもって感じます。

まずは自分の弱い所を受け入れなければなりません。地味ではありますが、簡単なことではありません。それでも好きなことや目標のため、大切な人のため、自分の中で譲れないもののために、確固とした思いがあれば、きっと飛躍向上できるはずです。私が勉強漬けの高校三年間＋予備校一年間通学をやり遂げたのも、「早稲田で箱根を走りたい」という思いを持ち続けていたからです。応援し続けてくれた家族や先生、友人の手前だったのもあり、この私でも何とかがんばり続けていられるのだと思います。

先日一月十三日に高校を訪問し、いっそうの母校愛を募らせました。校長先生をはじめとして先生方はもちろん、後輩生徒の多くが私のことを知ってくれていて、熱烈な歓迎を受けました。校舎は新しく改築されていても、5年前と変わらず加高生の真面目で穏やかな雰囲気にほっとし、尊敬をこめた熱い眼差しで卒業生が私を見てくれたことにとても感動しました。後輩のみんなが私の走りで勇気づけられたのなら、卒業生としてこれほど幸せなことはありません。ありがとうございます。

加高生の頑張りと活躍を心から願っています。

今年の5月2日に一人のロックミュージシャンがこの世を去った。テレビでも連日のように報道されていたので知らない人はいないだろう。忌野清志郎だ。日本で彼ほど愛されていたロックミュージシャンはいないと思う。

忌野清志郎は、中学生の頃にエレキブームの刺激を受け、バンドを始めた。その頃といえば、ジョン・レノンが所属していたビートルズの最盛期であった。その後、バンドの解散、再編を経て、1970年にRCサクセションとしてデビューした。バンドは低迷し、清志郎はソロとしての活動が目立っていった。1991年にRCサクセションを解散。だが、清志郎は音楽プロデューサーや俳優として活躍していった。その後、2006年7月13日に公式ウェブサイトにて喉頭ガンを告白し入院するためにすべての音楽活動を休止。2008年に一度復帰するも再び入院した。今年の5月1日に容態が急変し翌2日に死去。ファンを対象にした葬儀には4300人もの人が駆けつけた。

私が思うに清志郎とは、一言で言うとスターである。ロックといえば「愛」と「平和」は欠かせないものだろう。清志郎はその「愛」をファンにささげた。ライブでは「みんな愛してます。」と何度も言っていた。それはロ先だけで言っているようには到底思えない、心の底からの「愛してます」だ。今のアーティストは歌詞の中に「愛してる」と入れることも引き継がれる。「愛」とは多く。しかし、清志郎のようにライブやコンサートで、観客に直接言えるアーティストはほとんどいないのではないだろうか。

ロックを語る上で欠かせない「愛」と「平和」というのは、学校生活や日常生活にも欠かせない言葉ではないだろうか。学校生活で当時はあまり受け入れられなかったロックというジャンルの音楽を大衆化させた男なのだ。ロックといえば派手な印象が強いだろう。そのため、嫌いな人はとことん嫌いなジャンルだろう。昔では考えられないようなオレンジ色の髪に濃い化粧。そんな清志郎がなぜ、人々に受け入れられたのだろうか。いということにつながるだろう。争いのなく仲のいいクラス、学校は多くの人が望んでいることである。また、人を愛するということは人間として当然のことだ。それは、ただ単に恋愛対象として人を愛するのではなく、広く愛するということである。友人を愛し、家族を愛する。そしてすべての生き物を愛するということである。

一つは「笑顔」が素晴らしかったからだと思う。彼の笑顔は満面の笑みだ。多少派手な服装だろうが、その笑顔を見たら悪い印象は持たないだろう。

2つめは「愛」だ。ロッ

忌野清志郎がこの世を去ったことで、日本のロックは一つの終わりを告げただろう。しかし、清志郎が築いたロックの基盤はこれからも引き継がれる。「愛」と「平和」。それは人間の平和といえばいじめのない世界規模で地球温暖化問題に取り組んでいる。身近なクラスでもこの問題に注目し、地球を守っていかなければならない。

講話後、各クラスの作業場所である加治木駅を始め、護国神社、網掛川児童公園など加治木高校周辺を中心に清掃を開始した。熊手や竹ほうきなどの道具を活用し、ゴミ拾いや除草に皆、真剣に取り組んでいた。普段お世話になっているその場所その場所に感謝の気持ちを込め作業した。あっという間に時間が過ぎ、初めて一年生全員で取り組んだ活動に達成感を感じることができた。また、地域社会に少しでも貢献できたことを嬉しく思った。

今回、この「勤労体験学習」を通し多くのことを感じ取り学ぶことができた。これから一人一人が学校・地域社会に貢献しようと決意を新たにした。

定期演奏会

五月十日、加音ホールで、吹奏楽部による定期演奏会が行われました。そこで今回、吹奏楽部の宮崎部長にインタビューをしました。

Q定演はどうでしたか。

A新一年生を加えての初舞台！七十八人全員で最高の演奏ができました。

Q定演にあたって大変だったことは何ですか。

A昨年と比べ一週間早いこともあり、思うように準備が進みませんでした。

Q部長としてうれしいことは何ですか。

A皆が、自分の楽器を大好きになって、どんどん成長してくれることです。

Qコンクールに向けての意気込みを一言どうぞ。

A自分たちが持っている力を本番でしっかり出せるように、部員全員が一丸となり日々の練習をより中身のあるものにしたいです。

Q吹奏楽部員へのメッセージをお願いします。

A今まで皆は本当によく頑張ってくれました。あとは、自分に自信を持って演奏してください。「おひさまSOUND」を目指し、仲間との絆を深めていきましょう。

勤労体験学習

五月二十八日、本校一年生が「勤労体験学習」を行った。前日は雨で天候も心配されたが、午後からは生徒たちの思いが通じたのか、とても良い天気となった。

「勤労体験学習」は、清掃ボランティアを通じて地域社会に貢献し、環境美化の大切さを認識することを目的としている。

はじめに、講師である加治木町保健生活課の竹ノ内敬明氏をお招きし、環境やリサイクルに関する講話をしていただいた。身近なゴミから地球温暖化を考えるというテーマをもとに、クラス対抗のクイズ形式で行われた。分かりやすく、楽しく環境問題について理解することができたのではないだろうか。

日本で、ゴミを処理するのに際し、最も費用がかかるものは人件費だという。これは、一人一人がゴミを出すことに対し責任を持たなければ、決して減るものではない。だからこそ、今、私たちが身近にできることから始めることが大切だ。例えば、分別をしっかりすることでゴミが新しい資源に変わり、再利用することができる。今では、六月五日が「世界環境デー」になっていることを知っているだろうか。

Getting to Know Your ALT Lauren !

加治木高校に来て約１年のローレン先生にインタビューをしました。

Q　どうしてＡＬＴになろうと思ったのですか。

A　留学生として大阪で生活をしていて、日本での生活が好きになりました。そして、日本に戻ってこようと思ったからです。

Q　日本で生活をしていて不便だったことはありますか。

A　車の運転をするときに、アメリカでは右側通行だったのでとまどったことと、英語を使うことが出来なかったことです。

Q　加治木のお気に入りの場所はどこですか。

A　龍門滝と高岡公園です。高岡公園は、加治木町が一望できるんですよ。

Q　加治木高校の印象はどのようなものでしたか。

A　加治木高校の生徒は、英語をよく理解していることに驚かされました。よい学校だと思います。

Q　アメリカの高校と加治木高校との違いがありますか。

A　アメリカの高校には加治木高校のように職員室はなく、先生方には教科ごとに部屋があります。また、アメリカの高校には、”Prom”（ダンスパーティー）があります。”Prom”はアメリカの高校生にとって重要なイベントです。

Q　”Prom”以外に高校ではどのような行事がありましたか。

A　体育祭や文化祭などはありませんが、”home coming”というイベントがあります。”home coming”とは新学期である９月に、学生が学校に戻ってきて開かれるパーティーです。このイベントは約一週間開催されます。そして、金曜日の午後からは授業がなく、アメリカンフットボールの試合を応援しに行きます。その試合のハーフタイムでは、ブラスバンドがマーチングをしたりします。試合が終わったら、ダンスパーティーがあります。すごい盛り上がりです。

Q　どのような高校生活を送っていましたか。

A　高校ではブラスバンド部に入っていました。担当のパートはパーカッションでした。マーチングやコンクールに出たりしていました。加治木高校の生徒達は、毎日部活をしていますが、私達は、週２回・３時間の練習をコンクールがある秋にしていました。そして、学校が始まる前の夏休みに、”Band camp”という合宿が一週間ありました。合宿は、きつくて、疲れました。

最後にローレン先生から加治木高校へのメッセージと好きな日本語を聞きました。

Let's continue having fun and learning English together!

好きな日本語は「猫に小判」です。

編集後記

加治木高校新聞第１４９号を作るにあたり、多くの方に取材をし協力をしていただきました。本当にありがとうございました。加高新聞も次号で１５０号を迎えます。その長い歴史を表す意味も込めて「加治木高校ＯＢのマスターズ甲子園出場」関連の記事や、今年一月に早稲田大学の代表として箱根駅伝を走り活躍した「朝日嗣也先輩（本校二００四年卒）からの手紙」などを取り上げました。加高新聞がこれからも、加治木高校の飛躍とともに未来へ続いていけたら、という願いを込めて編集後記を締めくくりたいと思います。

新聞委員会
一―一　上之原　綾香
一―二　下小牧　利紗
一―三　中村　春臣
一―四　福岡　杏樹
一―五　永田　彩花
一―六　東　克俊
一―七　井上　拳史郎
一―八　山口　茉佑
二―一　藤崎　恒輔
二―二　湯之原　尚矢
二―三　佐藤　史
二―四　有川　愛美
二―五　吉原　聖也
二―六　竹田　幹生
二―七　内村　円
二―八　有馬　太陽
三―一　宮内　直人
三―二　亀澤　梨江
三―三　中嶋　千代美
三―四　津曲　将吾
三―五　篠原　知樹
三―六　農頭　恭平
三―七　米篠　かす美
三―八　有馬　直人